

# 若年非正規雇用労働者に対する 在職者訓練コースの設定、 実施プロセスに関する調査研究



※本資料の記載内容・データは、職業能力開発総合大学校基盤整備センター調査研究報告書№171  
「若年非正規雇用労働者に対する在職者訓練コースの設定、実施プロセスに関する調査研究報告書」を  
基にしています。

# 若年非正規雇用労働者に対する在職者訓練コースの設定、実施プロセスに関する調査研究

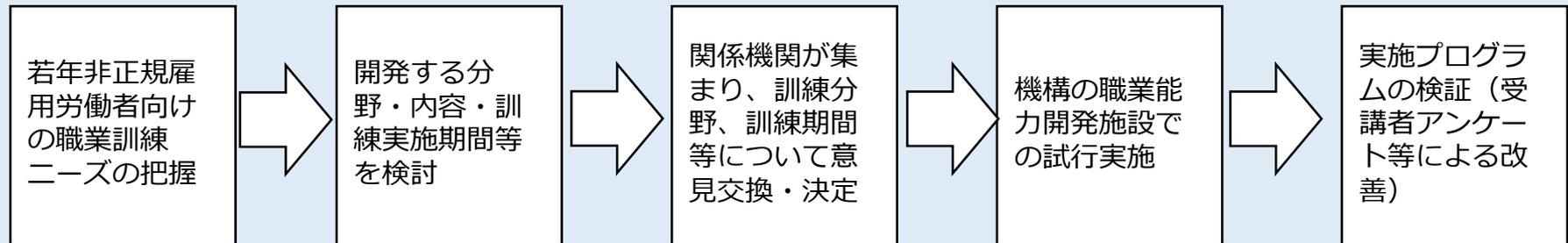
## 背景・目的

- 職業能力開発機会が乏しく、不安定な就労を繰り返す若年者層に対し、実践的な職業能力を付与し、安定的な雇用につなげていくための取組が重要になっている。
- 現在、公共職業訓練で実施している在職者訓練は、企業側からのニーズに応じて設定しており、企業内訓練の一環として活用される場合が多い。
- このため、企業内の人材育成機会に恵まれない若年非正規雇用労働者がアルバイト等しながらでも、次のステップとしての雇用安定に向け訓練を受講できるよう、土日・夜間などの在職者訓練コースを開発し、検証実施する。

## 事業概要

### 若年非正規雇用労働者を対象とした在職者訓練コースの研究開発及び検証実施

- 実施時期 平成27年～28年度
- 実施機関 職業能力開発総合大学校 基盤整備センター  
機構のノウハウを活かし、労働局・都道府県、労使団体等とも連携し、主に不本意ながら非正規雇用を繰り返す若年層を対象に、安定雇用に向けた訓練コース（カリキュラム）を開発し、開発した訓練コースを検証実施する。



- 開発したコース 2コース
- 訓練期間 3か月
- 実施回数 8回（平日夜間：1コース、土曜日：7コース）

# 若年非正規雇用労働者に対する在職者訓練コースの設定、実施プロセスに関する調査研究

## 調査概要（ニーズ調査）

【調査目的】人材育成の機会が乏しい若年非正規雇用労働者が、働きながらも安定的な雇用に向け訓練を受講できるように在職者訓練コースを開発し、その試行実施を行い全国展開を視野に入れ訓練受講ニーズ把握から訓練の実施、評価までのプロセスを整理すること。

【調査手法】訓練対象者が求める訓練分野、訓練の実施方法などをわかものハローワークにおいて調査

【対象者条件】近隣都県（埼玉、千葉、東京、神奈川、静岡）及びブロック（北海道、東北、中部、近畿、中国・四国、九州）の拠点わかものハローワーク及びわかもの支援コーナー（※）の利用者のうち、**正社員をめざす者**  
**合計配布数810（各所あたり30から50名程度）**

※正社員での就職を目指す若者（おおむね35歳未満）を支援する専門のハローワーク

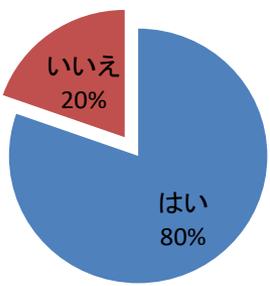
【回収数】**723（回収率89.3%）**

【調査期間】2017年10月

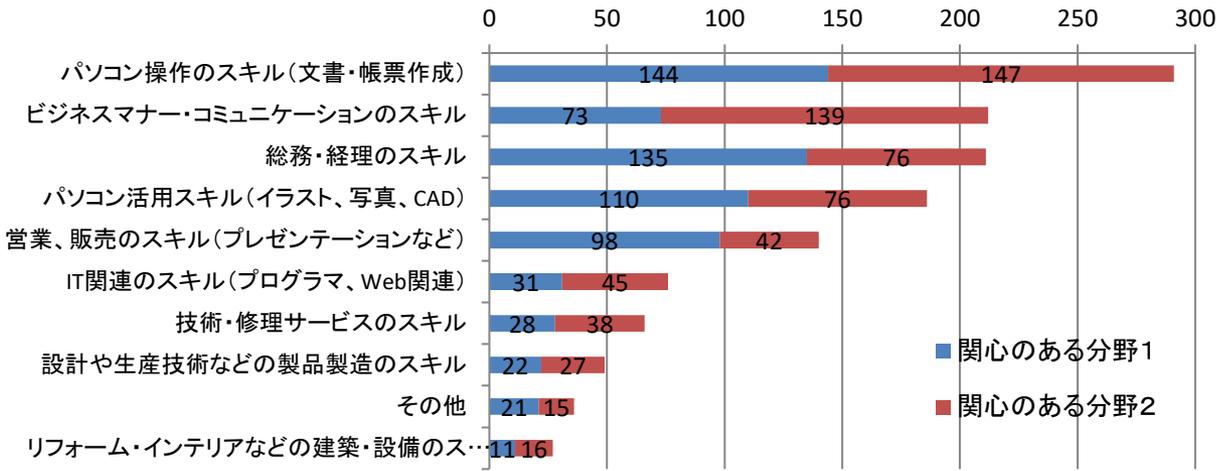
## 調査結果（訓練の必要性等）

就職のため自らの能力向上について、8割の者が必要と考えている。  
また、関心のある訓練分野は、第1、第2希望を合わせて「パソコン操作のスキル」を希望する者が全体としては多い。

### 訓練の必要性を感じますか？



### 関心のある訓練分野

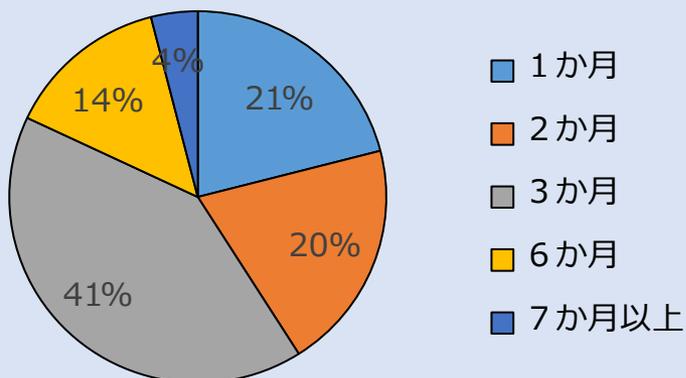


# 若年非正規雇用労働者に対する在職者訓練コースの設定、実施プロセスに関する調査研究

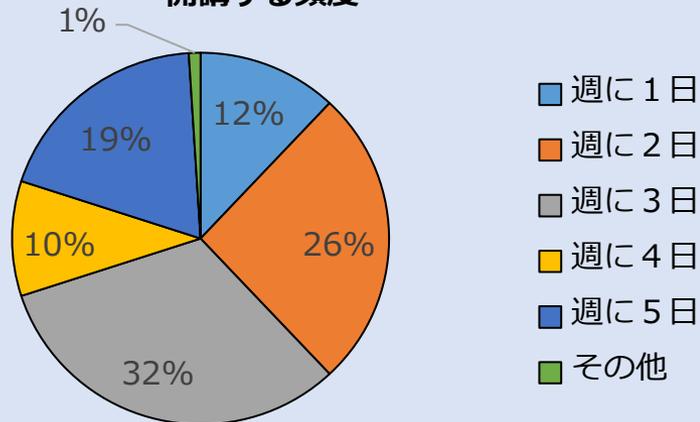
## 調査結果（訓練期間等）

希望する訓練期間は3か月とした者（41%）が最も多く、3か月以下を希望する者が全体の約8割となっている。開講する頻度は週3日とする者（32%）が最も多く、次いで週2日とする者（26%）の順となっている。

### 希望する訓練期間



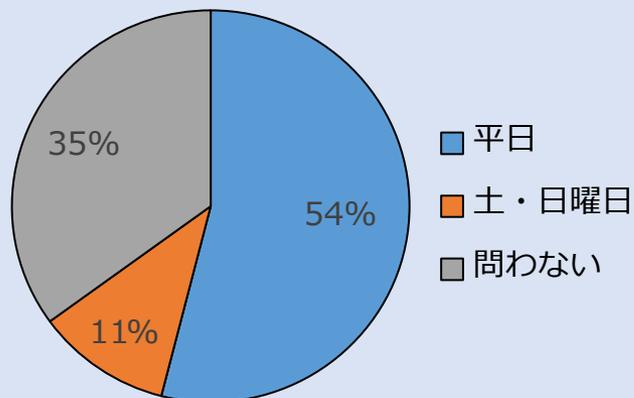
### 開講する頻度



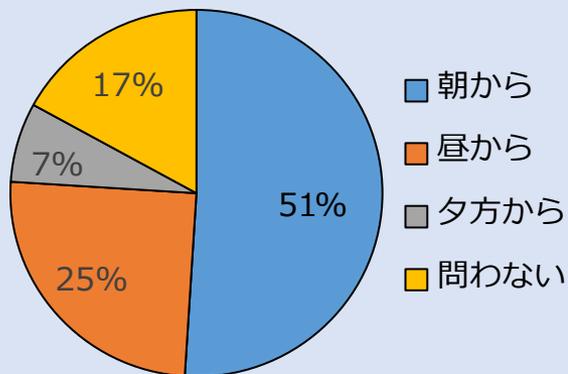
## 調査結果（訓練の時間等）

希望する開講日として平日を希望する者（54%）、朝からの受講を希望する者（51%）が多いものの、一日の受講時間は2時間又は3時間を希望する者が約半数（52%）となっている。

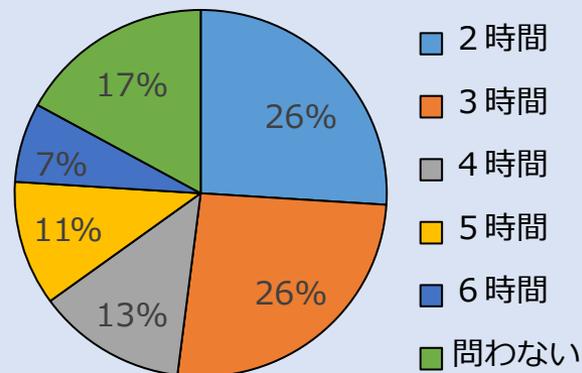
### 希望する開講曜日



### 訓練開始時間



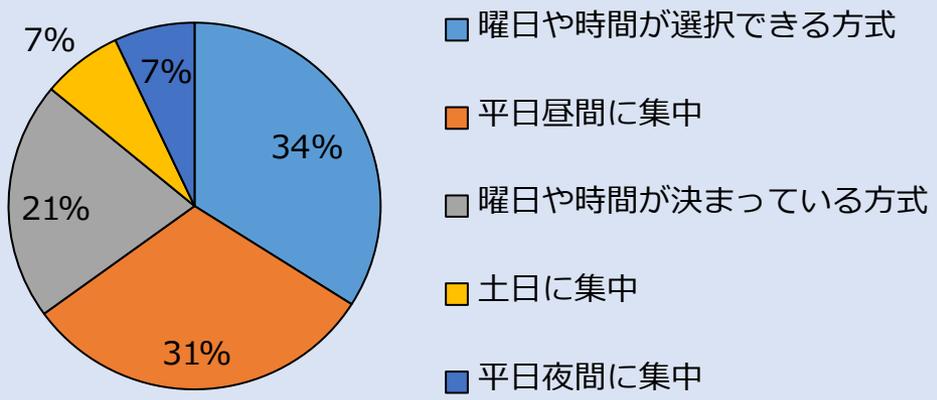
### 一日の受講時間



## 調査結果（訓練方式）

曜日や時間が選択できる方式を希望する者（34%）、平日昼間を希望する者（31%）が多い。

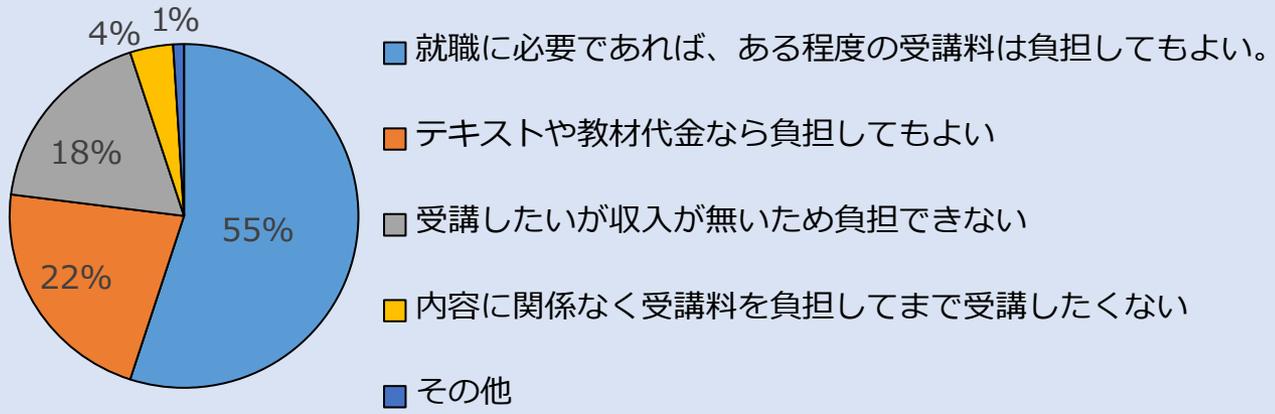
### 受講しやすい訓練方式



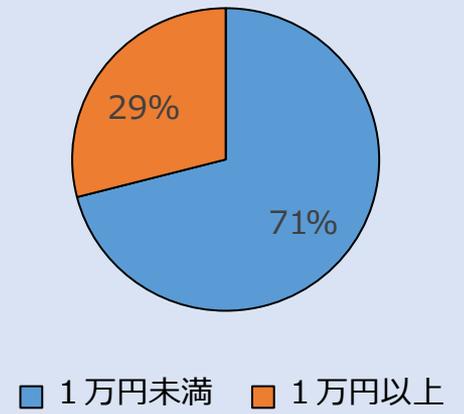
## 調査結果（受講料）

訓練を受けるにあたって、就職に必要な内容であれば受講料を負担してもよいと考えている者（55%）が最も多いが、その負担額は、1万円未満の者（71%）が多い。

### 受講料の負担について



### 受講金額について



# 若年非正規雇用労働者に対する在職者訓練コースの設定、実施プロセスに関する調査研究

## 訓練の試行

【対象者】ものづくり企業へ正社員として就職もしくはキャリアアップを目指す者  
 有期雇用契約の契約社員、パート、アルバイト等の非正規雇用労働者（派遣労働者を含む）  
 育児などで平日昼間に訓練を受講できないが、将来的に就職を目指している者

【訓練期間】3か月（66時間）

【開講コース】8コース

実施施設	訓練内容	実施形態	受講料	受講者数
埼玉職業能力開発促進センター	CAD・機械製図	平日夜間コース	無料	2
千葉職業能力開発促進センター	NCプログラミング	土曜日コース	無料	3
関東職業能力開発促進センター （神奈川県）	CAD・機械製図	土曜日コース	無料	3
埼玉職業能力開発促進センター	CAD・機械製図	土曜日コース	有料7千円	8
千葉職業能力開発促進センター	NCプログラミング	土曜日コース	有料7千円	中止
関東職業能力開発促進センター （神奈川県）	NCプログラミング	土曜日コース	有料7千円	6
中部職業能力開発促進センター （愛知県）	CAD・機械製図	土曜日コース	有料7千円	14
関西職業能力開発促進センター （大阪府）	CAD・機械製図	土曜日コース	有料7千円	7

【広報媒体】広報用リーフレットの配布、職業能力開発施設のHP、SNS利用

【広報先】都道府県労働局、ハローワーク・・・ハローワーク利用者に配布を依頼  
 商工会議所・・・広報誌等に掲載依頼 人材紹介会社・・・利用者への配布を依頼  
 訓練内容に関連した企業・・・非正規雇用の従事者への配布を依頼

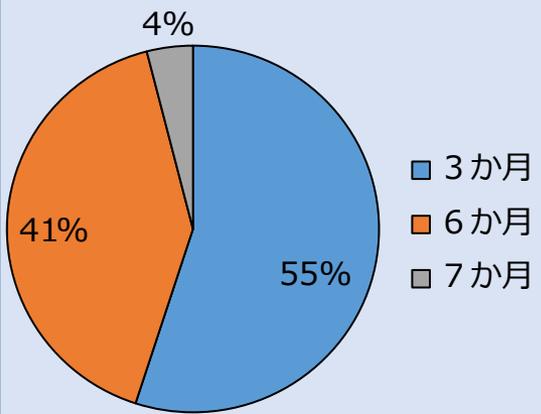
【訓練を知ったきっかけ】新聞・情報誌等26%、ハローワークなどからの紹介21%、試行訓練のパンフレット21%、  
 ホームページ18%、会社の指示10%

## 訓練の試行結果

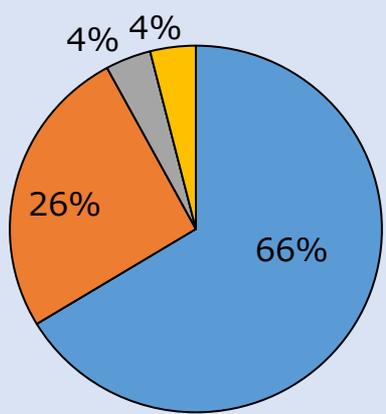
【受講者属性】 受講者の年代 20代：31%、30代：38%、40代：31%  
現在の雇用形態 有期雇用契約又は人材派遣：40%、パート又はアルバイト：60%  
勤続年数：5年未満：77%、5年以上10年未満：14%、10年以上：5%  
関連分野の修学経験：経験あり：42%

### 【受講者アンケート】

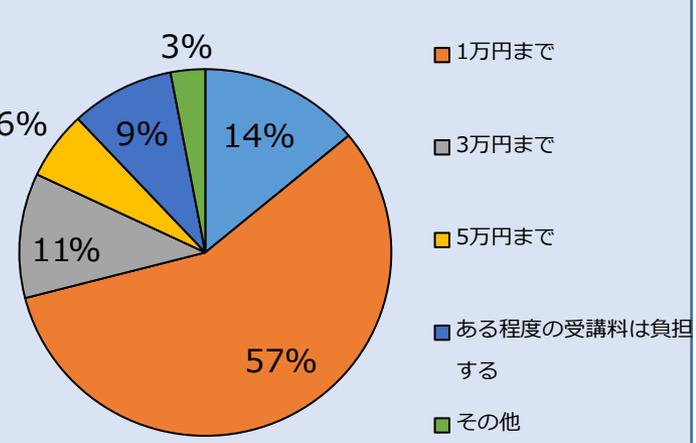
#### 希望する訓練期間（受講後）



#### 希望する訓練受講の頻度（受講後）



#### 希望する受講料（受講後）



希望する訓練期間は3か月を希望する者（55%）が多いが、受講前より6か月を希望する者（41%）が増えている。

希望する訓練受講頻度は、週1回・2回以下を希望する者（92%）が多く、受講前より頻度が下がっている。

希望する受講料は1万円以下を希望する者（71%）が最も多く、受講前と変わらない。

# 全国の求職者を対象とした オンラインによる職業訓練の 試行実施に関する調査研究



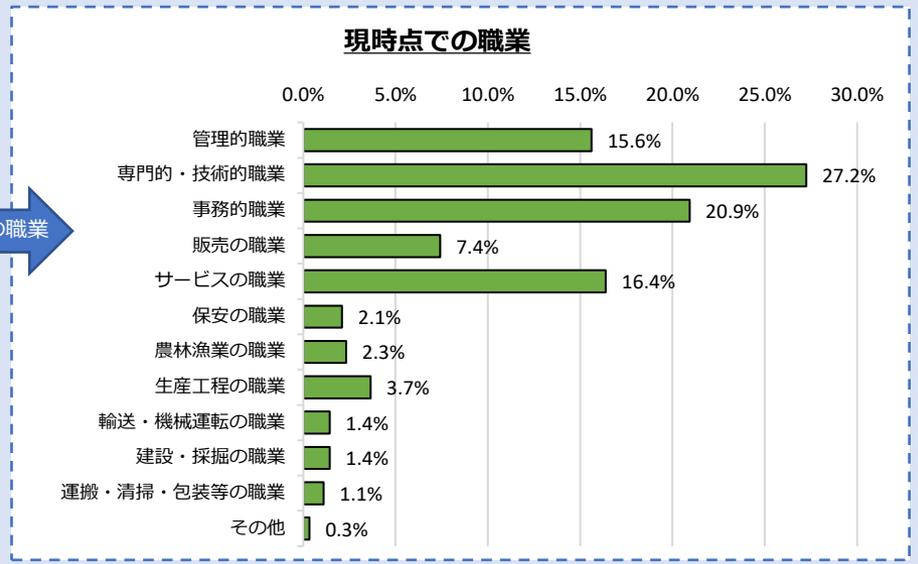
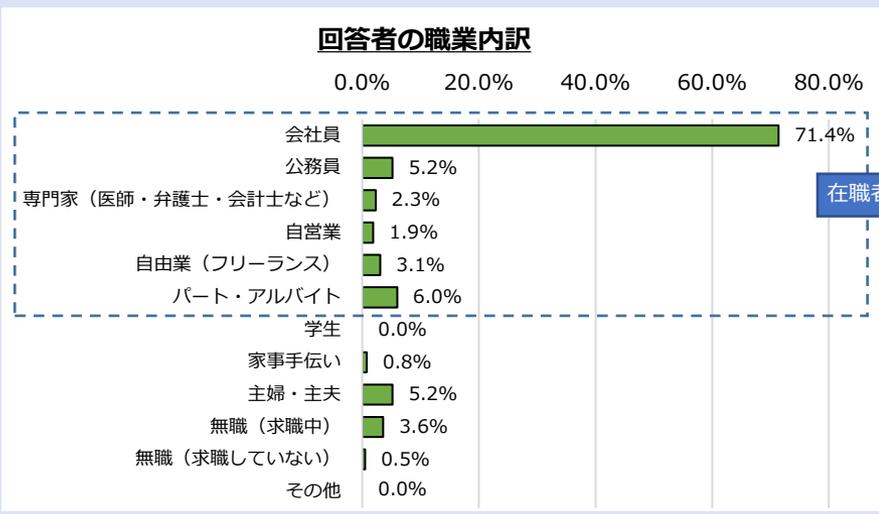
※本資料の記載内容・データは、職業能力開発総合大学校基盤整備センター調査研究報告書№188

「全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練(IT分野)の訓練効果及び課題に関する調査研究」を  
基にしています。

# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施に向けた事前調査

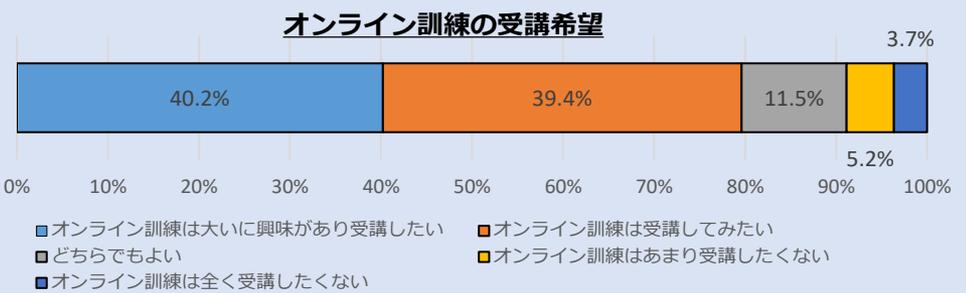
## 事前調査の概要

- 【調査目的】 IT分野での職業訓練においてオンライン訓練を試行的に実施するにあたり、受講希望の有無、希望訓練時間等を調査・検証する
- 【調査手法】 Webアンケート
- 【調査委託先】 株式会社アスマーク
- 【回答者】 1年以内にIT業界の職種に就職・転職の意向がある20～50代の男女（全国／学生は除く）
- 【回収数】 1,000サンプル（うち、在職者899サンプル）
- 【調査期間】 2022年7月15日（金）～2022年7月20日（水）



## 事前調査の結果（受講希望） ※在職者回答分

- オンライン訓練の受講希望が全体の約8割
- ・「大いに興味があり受講したい」（40.2%）
  - ・「受講してみたい」（39.4%）



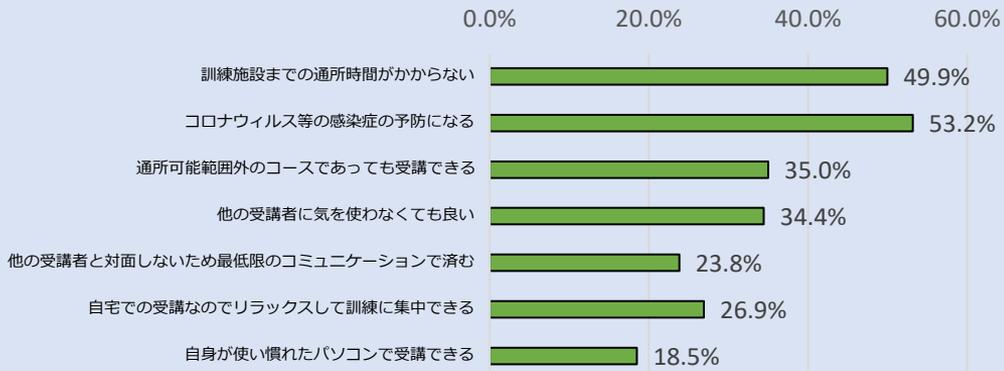
# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施に向けた事前調査

## 事前調査の結果（オンライン訓練のイメージ） ※在職者回答分

- ・同じ訓練内容において対面式訓練よりオンライン訓練を希望（65.2%）。
- ・オンライン訓練のメリット 「訓練施設までの通所時間がかからない」（49.2%）
- ・オンライン訓練のデメリット 「わからない時に周りの他の受講者に聞けない」（31.0%）

### オンライン訓練を対面式訓練と比較してのメリット

※複数回答可



その他の意見…就職相談はプライバシーを確保できるため安心できる、交通費がかからない 等

### オンライン訓練を対面式訓練と比較してのデメリット

※複数回答可



その他の意見…通信機器等に係る専門用語がわからない、通信障害時の対応が不安だ、通信費の負担が心配だ、質問、補習等など対応してもらえないか心配だ、オンライン訓練そのものについていけるか不安だ、事前に訓練施設に行けなくて、応募前に訓練内容を詳しく知ることができるか不安だ 等

### オンライン訓練と対面式訓練ではどちらを希望

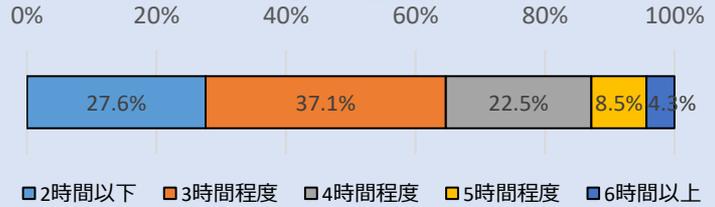


### 事前調査の結果（期間・時間の希望） ※在職者回答分

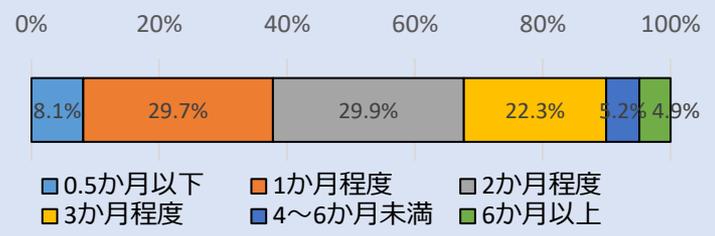
- ・1日あたりの訓練時間希望  
「3時間程度」（37.1%）  
「2時間以下」（27.6%）
- ・希望する訓練期間  
「2か月程度」（29.9%）  
「1か月程度」（29.7%）

働きながらオンライン訓練を受講するため、短時間・短期間の訓練を希望

### 1日当たりの訓練時間の希望



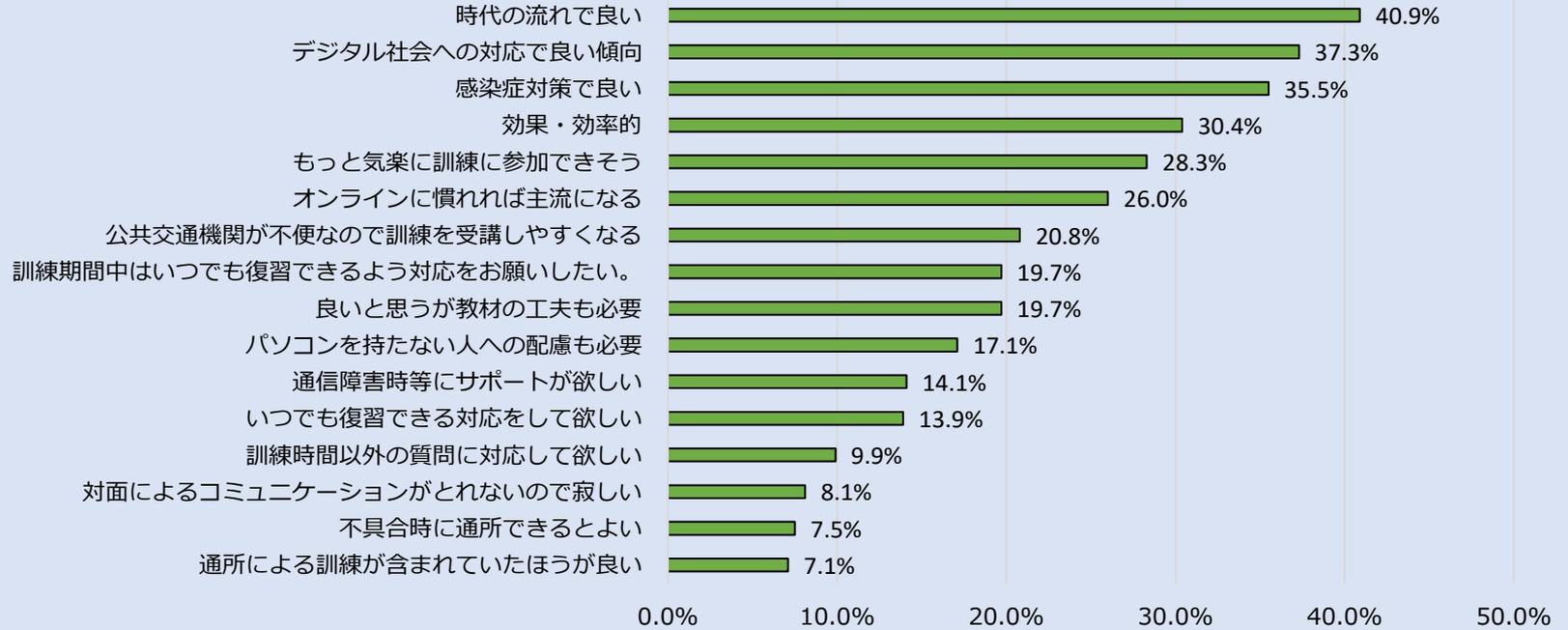
### 訓練コースの訓練期間の希望



# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施に向けた事前調査

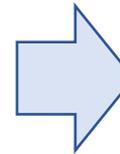
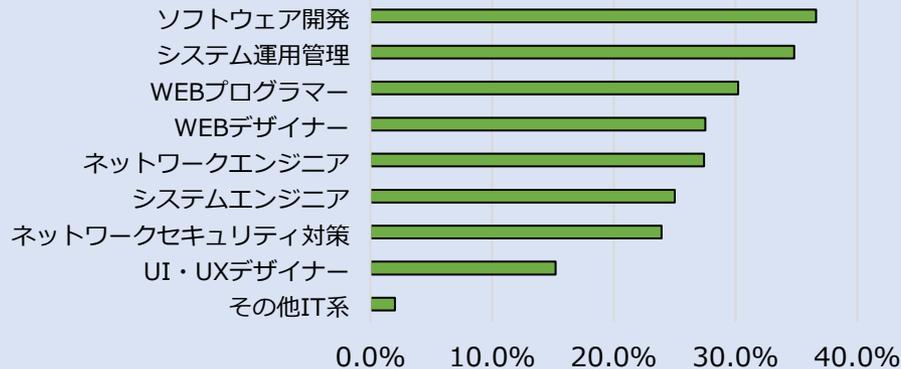
## 事前調査の結果（オンライン訓練のイメージ） ※在職者回答分

### フルオンライン訓練（応募～選考～受講～修了をオンライン対応）をどのように考えるか



## 事前調査の結果（希望職種） ※在職者回答分

### IT分野での希望職種（複数回答）



コース名
サイバーセキュリティマネジメント科
Webアプリプログラマー (Java言語) 養成科
IT人材育成科
IT導入リーダー育成科
Webデザイナー養成科

# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施

## 事業概要

DXの推進のためには、IT企業のみならず、全国のIT利用企業で働くデジタル人材の育成が不可欠であるが、IT分野の職業訓練については、一部の大都市圏にコース設定が集中しており、実施地域に大きな偏りがある。

このため、コース設定が少ない地域の求職者がIT分野の職業訓練を受講できるよう、IT分野の職業訓練について、全国の求職者を対象とする通所要件を課さないオンライン訓練（委託訓練）を試行的に実施し、訓練効果や課題の検証を行う。

## 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練（IT分野）の訓練効果及び課題に関する調査研究

- 実施時期 令和4年度
- 実施機関 職業能力開発総合大学校 基盤整備センター

## 検証訓練の実施

- 訓練種類 委託訓練
- 訓練形態 通所要件のない同時かつ双方向に行われるオンライン訓練
- 訓練期間 3か月程度（9月16日～12月16日、一部コースは12月15日まで）平日開講、1日6時間
- 対象者 全国のハローワークの求職者のうち主に雇用保険受給者
- 訓練規模 100人（20人×5コース）
- 対象分野 IT分野（プログラミング、ネットワーク構築、システム運用管理、ネットワークセキュリティ等またはUI・UXデザイナー、Webデザイナー等）
- 実施主体 民間教育訓練機関が所在する地域の職業能力開発促進センター（ポリテクセンター）

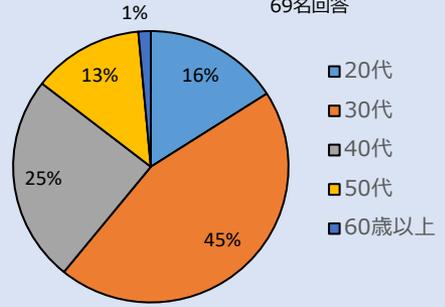
実施主体	コース名	総訓練時間	定員	応募者数	入校者数	修了者及び就職中退者数
埼玉	サイバーセキュリティマネジメント科	306時間	各20名	14人 (9都府県)	13人	13人
大阪	Webアプリプログラマー (Java言語) 養成科	321時間		29人 (17都道府県)	20人	18人
島根	IT人材育成科	306時間		10人 (8道県)	10人	10人
岡山	IT導入リーダー育成科	321時間		9人 (8都県)	8人	8人
熊本	Webデザイナー養成科	306時間		115人 (36都道府県)	20人	20人

# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施

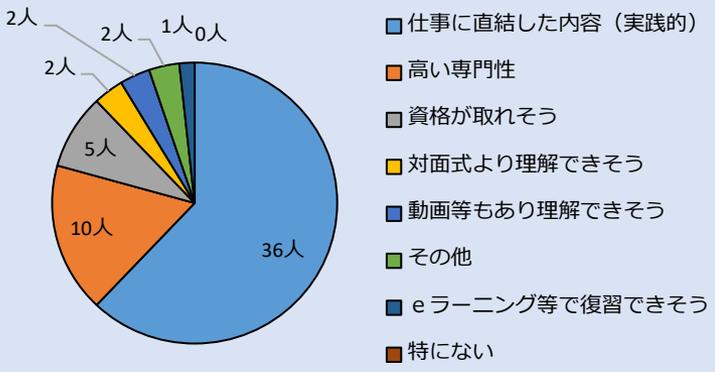
## 受講者アンケート結果（訓練開始時）

### 受講者の年代

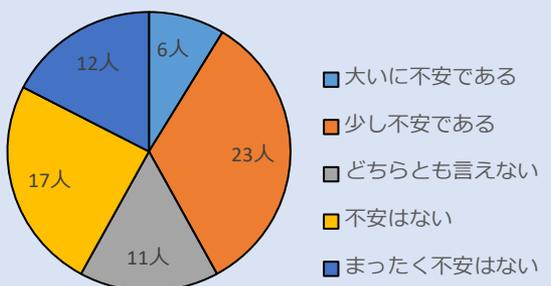
※受講者71名中  
69名回答



### 受講にあたり期待していること

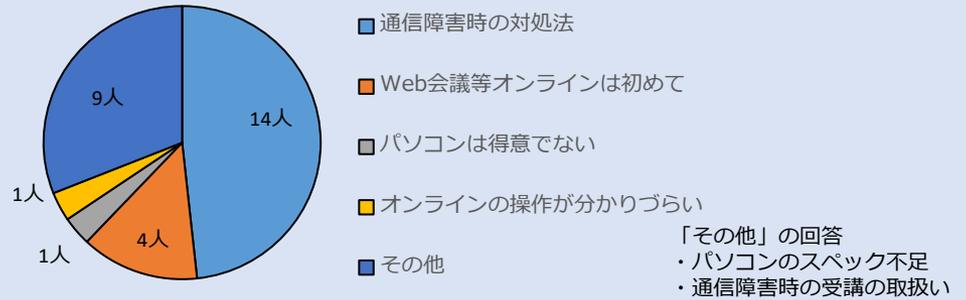


### パソコン通信機器で不安を感じるか

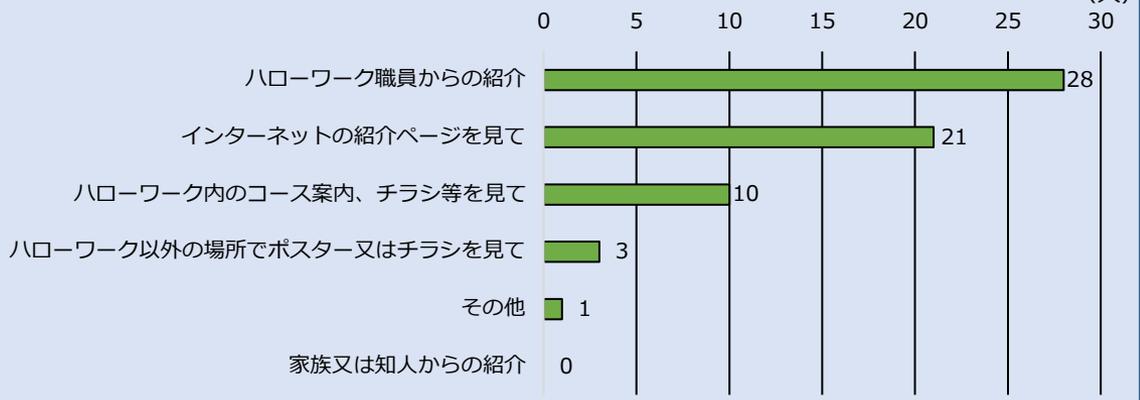


「不安である」の理由

### 通信機器の不安理由



### 訓練コースを初めて知った経緯



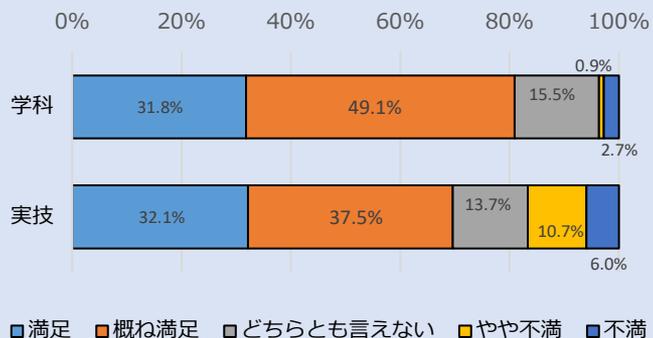
### 受講決断理由（複数回答）



# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施

## 受講者アンケート結果（訓練終了後）

### 訓練の満足度



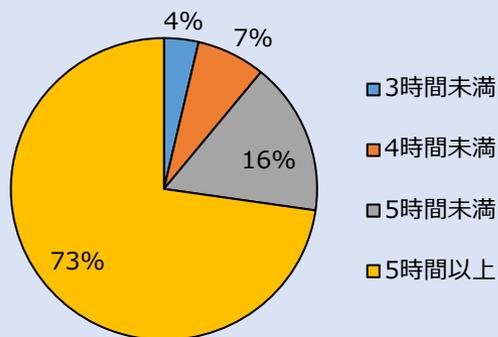
### 対面式訓練と比較して、フルオンライン訓練が良かった点

- ・通所では受講できないコースを受講できた
- ・通所が無いため時間を有効に活用できた（復習時間の増、家庭の用事等）
- ・リモートワークの練習ができた（同時双方システムに精通）
- ・アーカイブがあるので復習しやすかった。
- ・受講者同士のコミュニケーションが対面より取りやすかった

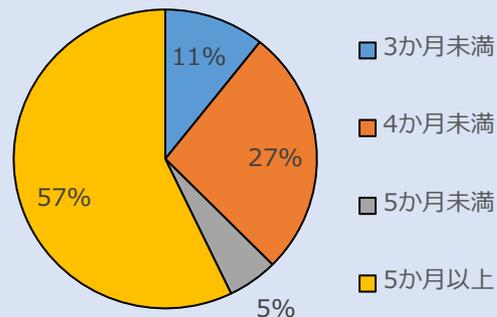
### 対面式訓練と比較して、オンライン訓練の改善点

- ・補助講師がいないので気軽に質問できなかった
- ・講師が見て回ることがないので軽微なことでも質問することができなかった
- ・放課後などに自習、補習の時間を取って欲しかった（個別に質問できるように）
- ・訓練期間に比べて訓練内容が多かった
- ・訓練の後半には受講者間の習得度に大きな差がついていた

### 希望する1日の訓練時間



### 希望する訓練期間



# 全国の求職者を対象としたオンラインによる職業訓練の試行実施

## 訓練実施機関へのヒアリング調査結果（訓練開始時）

### 対面式訓練と比較して想定される課題



※訓練を実施した5機関からの複数回答数

### フルオンライン訓練を企画するうえでの工夫

- ① 訓練効果を高めるための工夫
  - ・受講者の画面上の操作が訓練実施機関側で確認、遠隔操作できるようにする。
  - ・訓練の録画を撮り、いつでも復習できるようにする。
- ② 訓練の効率を高めるための工夫
  - ・ビジネスチャットツール等の活用
  - ・安全衛生のために、休憩時間を長めにとる。
- ③ 受講者のモチベーション向上、コミュニケーションを図るための工夫
  - ・資格取得を目標とする。
  - ・こまめな声掛けを行う。
- ④ 就職率を高めるための工夫
  - ・訓練実施機関の所在地以外の受講者の居住地や、それ以外の都道府県での就職希望者に対し、ハローワークからの情報や希望する企業、地域等について情報を得るための支援を行う。

## 訓練実施機関へのヒアリング調査結果（訓練終了時）

### 訓練を実施するうえでの工夫

- ① 訓練中のカメラやマイクの状態
  - ・カメラは常時ONで、マイクはOFFとしたが、点呼時にはマイクONやチャットを活用し返事をしてもらった。
- ② 受講者のモチベーション維持のための工夫
  - ・質問を口頭形式にして質問を共有できる状態にした。
  - ・受講者同士で交流できる場を設けた。
- ③ 受講者の集中力を切らさせない工夫
  - ・説明後にペアワークやグループワークなどで発言の時間を設けた。
  - ・訓練中に質問したり、課題演習で細かな質問に対応した。
- ④ 就職支援
  - ・応募書類の添削や面接対策、就職相談など対面と同様に実施した。
  - ・就職相談の予約票を用意し、いつでも相談ができるようにした。
  - ・オンラインによる企業説明会、就職講話を実施した。

### 成功させるためのポイント

- ・受講者が自身のインターネット環境を理解していること。
- ・受講者同士が信頼関係を構築し、質問しやすい環境であること。

### 良かった点

- ・教室のスペースに捕らわれることのない訓練を運用できた。
- ・設備面の投資が低く抑えられることができた。

### 改善点

- ・全国規模の割に応募者が少なかったため、周知に工夫が必要。
- ・育児や自己都合で欠席等目立つ人もいたので、訓練に集中できる環境にあるか、事前に確認する必要がある。
- ・受講者同士の情報共有の場としてブレイクアウトルームの活用を進めたい。
- ・受講者にオンライン用ツールの操作方法や共有データの管理方法を事前に説明したほうが良い。